



飯塚市教育委員会事業評価結果報告書

(令和元年度分)

～本物志向・未来志向のひとづくりのために～

- かしこく やさしく たくましい 子どもたちの育成
- いつでも どこでも だれでも 学べる環境づくり
- 個性豊かな 新しい文化の創造
- 次代の飯塚市を担う ひとづくり

令和2年11月

飯塚市教育委員会

目 次

I	はじめに	・・・・・・・・・・	P 1
II	飯塚市教育委員会について	・・・・・・・・・・	P 1
III	教育委員の活動状況	・・・・・・・・・・	P 2
	(1) 教育委員会会議		
	(2) 研修会等への参加状況		
IV	令和元年度事務事業評価	・・・・・・・・・・	P 5
	1 点検・評価について		
	(1) 点検・評価する事務の対象		
	(2) 点検・評価の方法		
	(3) 結果の取扱い		
	2 全体評価結果		
	(1) 全体集計結果	・・・・・・・・・・	P 5
	(2) 外部評価講評	・・・・・・・・・・	P 6
	3 取組み施策別評価結果		
	(1) 学校教育	・・・・・・・・・・	P 8
	(2) 社会教育	・・・・・・・・・・	P 13
	(3) 事務事業に係る点検・評価一覧表	・・・・・・・・・・	P 16
	(4) 点検及び評価シート（各課提出）	・・・・・・・・・・	P 17
●	参考資料		
	令和元年度教育委員会会議付議議案等一覧	・・・・・・・・・・	P 31

＜本報告書作成にあたり外部評価いただいた方々＞

福岡教育大学特任教授 主税 保徳

元小学校校長 森山 一昌

I はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされています。

本報告書は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすために、令和元年度の飯塚市教育委員会に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行った結果を、教育に関し学識経験を有する者の意見を付して、報告するものです。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 飯塚市教育委員会について

【組織、構成】

都道府県及び市町村等に置かれる行政機関のひとつで、教育長及び4人の教育委員をもって組織される合議制の執行機関であり、学校教育、生涯学習、文化等に関する事務を担当しています。

【教育長の任命】

市長の被選挙権を有するもので、人格が高潔で、教育行政に関し識見を有するものの中から、市長が議会の同意を得て任命し、その任期は3年で、再任できることとなっています。

【教育委員の任命】

市長の被選挙権を有するもので、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有するものの中から、市長が議会の同意を得て任命し、その任期は4年で、補欠委員の任期は前任者の残任期間となります。また、委員は再任できることとなっています。

【運営等】

教育委員会は、大局的な見地から教育行政の基本的方針を決定し、その方針決定を受け、教育長が事務局を指揮監督して具体的な事務を執行する仕組みとなっています。

【飯塚市の教育委員会】

職名	氏名	現在の任期
教育長	武井 政一	令和 2年4月 1日～令和 5年3月 31日
委員(教育長職務代理者)	上田 敬子	令和 2年5月 17日～令和 6年5月 16日
委員	大隈 恵子	平成 30年5月 17日～令和 4年5月 16日
委員	高石 双樹	令和 元年5月 17日～令和 5年5月 16日
委員	安永 卓生	平成 29年5月 17日～令和 3年5月 16日

Ⅲ 教育委員の活動状況

1 教育委員会会議

教育委員会会議は、毎月1回の「定例会」と教育長が必要と認めたとき等に開催する「臨時会」からなっており、付議案件及び懸案事項などの審議を行い、教育行政の方針等を決定しています。

【令和元年度開催状況等】

- ① 開催回数：14回（うち定例会12回、臨時会2回）
- ② 付議件数等：議決事項・・・46件 ※「参考資料」参照
報告事項・・・40件 ※「参考資料」参照
- ③ 主な付議案件
 - 令和2年度から使用する小学校教科用図書、中学校教科用図書の採択
 - 飯塚市教育職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
 - 飯塚市公民館条例施行規則等の一部を改正する規則
 - 飯塚市立図書館条例施行規則の一部を改正する規則
 - 飯塚市立学校管理規則の一部を改正する規則
 - 飯塚市地域学校協働活動推進員設置要綱の制定
 - 飯塚市スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーに関する要綱の制定
 - 飯塚市学校運営協議会委員の任命
 - 飯塚市いじめ・不登校問題連絡協議会委員の委嘱又は任命
 - 指定管理者の指定（飯塚市庄内生活体験学校）
 - 教育財産の用途廃止
 - 新型コロナウイルス感染拡大防止に係る小・中学校等の対応について etc

2 研修会等への参加状況

教育委員会会議以外にも、公式行事への参加、学校の訪問・意見交換会、他市町教育委員との合同研修会など、様々な活動を行っています。以下は、主に教育委員会事務局に案内や参加依頼があった案件のみ記載していますが、これ以外にも地域における様々な各種行事等へ参加しています。

◇会議・研修会等への出席

時期	名称	概要
平成31年4月	飯塚市立小・中学校管理職 春季研修会	「本市が目指す学校教育」についての講話、「未来を担う子どもたちに必要な教育の方向性」についての講演

令和元年 5月	平成 31 年度飯塚市小中学校 PTA 連合会総会	飯塚市 PTA 連合会の平成 30 年度事業及び活動報告、令和元年度事業計画及び予算
	グローバル人材育成研修事業帰国報告会	飯塚市の中学生 20 名が参加した、姉妹都市サニーバール市での現地研修成果の報告会
6月	第 38 回飯塚新人音楽コンクール本選	全国から応募のある新進演奏家によるピアノ・声楽の競演会、5 月に予選、6 月に本選を行う
	サニーバール中高生等来飯歓送迎会	来飯した米国カリフォルニア州のサニーバール市の中高生との交流事業等
7月	同和問題啓発月間街頭啓発	コスモスコモン・商店街に於いて市民への街頭啓発活動
	令和元年度筑豊市町村教育委員会連絡協議会総会	総会及び「学校における働き方改革のねらいと業務改善」についての研修会等
	第 40 回飯塚市少年の船結団式・解団式	市内小中学生が参加した、沖縄への研修事業の結団・解団式
	第 11 地区小学校教科用図書採択協議会	R2 年度から使用する小学校教科用図書の選定・採択するもの
8月	第 13 回九州地区市町村教育委員会研修大会	九州各県における各市町村教育委員会の情報交換及び教育行政の充実・発展を目的とする研修会
	令和元年度飯塚市少年の主張大会	人格の形成過程にある中学生が日常のなかで自分を取り巻く社会をどのように捉え何を感じているのか等を発表する青少年健全育成事業
	飯塚市立小・中学校管理職夏季研修会 人権・同和教育実践交流会	「教職員の人権教育・人権意識等に関する調査結果の考察と提言」の講話及び「互いの存在を認め合い、思いを表現できる集団を目指して」「STOP！結婚差別～部落差別って何？」等についての実践発表・研修
	令和元年度飯塚市学力向上フォーラム（全教職員研修）	「新しい時代に求められる資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指して」、「学びの成果をあげるマネジメントのあり方」の講演
9月	第 48 回飯塚市部落解放研究集会（人権フェスティバル）	人権問題を自らの課題としてとらえ認識を深めるため、「命の輝き～車イスから見える世界ってけっこうステキ～」講演及び演奏会
10月	令和元年度第 1 回飯塚市総合教育会議	議題：飯塚市市立小・中学校における教職員の働き方改プラン（案）について、学校と児童クラブの連携について、不登校の実態について
11月	いっぴか小学生の討論会	市内 19 小学校の代表 19 名によるテーマ「あなたは飯塚をどんなまちにしたいですか？」の討論会

令和2年1月	飯塚市立小・中学校管理職 冬季研修会	「九州北部豪雨の教訓とその後の対応」についての講演、「飯塚市立小・中学校における教職員の働き方改革の方向性」についての説明
	飯塚市成人式	記念式典、猫 jealousy 演奏、オリジナルプロモーションビデオ上映会、近畿大学附属高等学校バトン部パフォーマンスなど
	令和元年度飯塚市小中学校 PTA 連合会教育講演会	「熱を持って接すれば、熱を持ってかえってくる」元プロボクサー坂本博之氏の講演

◇学校訪問・行事等への出席

時 期	名 称	概 要
令和元年4月	小学校・中学校入学式	市立小学校 19校 市立中学校 10校
平成31年4月 ～令和2年3月	定例校長会	円滑な学校運営を図るために、様々な教育課題について協議
令和元年6月 令和元年11月	学校開放日	市立小学校 19校・中学校 10校で実施される公開授業の視察
令和元年5月 令和元年7月	学校訪問	若菜小学校など各小中学校を訪問、授業視察等を踏まえ学校運営等についての意見交換
令和元年10月 令和元年11月	研究指定・委嘱校研究発表会	飯塚第二中学校などを訪問、実践的な取組み等の研究発表会の視察
令和2年3月	小学校・中学校卒業式	市立小学校 19校 市立中学校 10校

IV 令和元年度事務事業評価

1 点検・評価について

(1) 点検・評価する事務の対象

飯塚市教育施策要綱に掲げる主要施策を達成するために取り組んだ、主な事業を対象としています。

(2) 点検・評価の方法

(1)に係る事業ごとに、必要性、効率性、公平性の観点からその達成度について、それぞれの所管課・部署が自己評価を行い、点検・評価の客観性を確保するために第三者の方々に外部評価をいただきました。

外部評価については、教育に関し学識経験を有する者で、公正な意見を述べることを期待できる人を想定し、教育系大学の教授と元小学校校長、計2名の方に評価をいただきました。また、事業ごとに評価者と各所管課との間で書面にてヒアリングを実施し、各事業の達成度や成果等について意見聴取を行いました。

この点検・評価においては、事業ごとにその達成度・成果等に応じて、評価者2名の合議のもと、A（達成している）、B（概ね達成している）、C（課題がある）、D（事業見直しが必要）で評価しています。

(3) 結果の取扱い

評価の高い事業は引き続き実施し、評価の低い事業については課題や問題の解決を行うと同時に、事業の見直しについても検討していきます。

2 全体評価結果

(1) 全体集計結果

飯塚市教育施策要綱に掲げた主要施策を達成するために、令和元年度に実施した事務事業の中で、事業の必要性や継続性等の観点から学校教育分野で5事業、社会教育分野で5事業の計10事務事業の選定を行い、外部評価者より評価をいただきました。

その結果、目標達成度は次の表のとおり、「A 達成している」が6事業で60%、「B 概ね達成している」が4事業で40%、「C 課題がある」、「D 事業見直しが必要」は0事業でした。

《評価結果集計表》

()内は率

評価 区分	A 達成	B 概ね達成	C 課題がある	D 要事業見直し	全 体
学校教育	3	2	0	0	5
社会教育	3	2	0	0	5
計	6 (60%)	4 (40%)	(-)	(-)	10 (100%)

(2) 外部評価講評

□ 福岡教育大学特任教授 主税 保徳

令和元年度に実施された 10 事業について検討し、評価を行いました。学校教育・社会教育の各 5 事業、合計 10 事業中で「達成」は 6 件、「概ね達成」は 4 件であり、全体的に適切な実施であったと評価できます。以下、主な事業について、分析・考察を提示します。

学校教育に関して、「ICT 機器の計画的整備や積極的活用」では、電子黒板と教育用パソコンをセットにして推進することにより、ICT の活用による学習効果を期待することができます。また、専門性の高い ICT 研究指導員の配置は、教職員の負担軽減とともに教職員の ICT 活用に関する指導力向上にもつながっています。ICT 研究指導員の訪問の要望が多いことは望ましい傾向であり、ICT 機器を積極的に活用しようとする学校側の姿勢が伝わってきます。今後は、ICT 活用に関する事例集等を作成して、効果的な活用法などを共有化し、実践・改善のサイクルを期待したい。「教職員の役割の見直しと専門スタッフの活用」では、各学校とも予約待ちの状況が見られるなど積極的に活用されています。また相談事業はスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家が行うため、教職員の負担軽減の役割を果たしています。さらには、ケース会議が開催されており、児童生徒の健全育成が組織的に推進されています。「大学・企業と連携した体験的活動等の実施」では、飯塚市はいち早く大学や企業と連携し、プログラミング教育モデルカリキュラムや授業事例集等の作成を行うなど、まさに先進的な取組です。また、児童のプログラミング体験講座やプログラミングコンテストなども開催され、学習の成果を発揮したり、他校の児童と交流したりする機会が確保されています。今後、本施策のさらなる充実・発展には、「ICT の活用による効果的な学習の推進」とも連動させる必要があります。施策の推進に当たっては共有化や連絡・調整等が重要となってきます。「献立検討委員会(毎月開催)による給食内容の工夫・改善」では、給食残滓率が確実に減少しています。このことは、献立委員会が確実に機能している指標の一つにもなっています。ただし、数値による検証は、残滓率のみです。今後は、各学校の食育の推進状況や児童生徒へのアンケート調査の実施などについても検討していただきたい。

社会教育に関して、「放課後子ども教室の実施」は、体験・交流・学習など、子供たちにとって魅力ある様々なプログラムが提供されているところに特長が見られます。また参加者数率もほぼ 100%であり、本施策が軌道に乗っていることを物語っています。「図書館の相互の(広域)利用促進」の大きな特長は、圏域住民が自由に他の自治体の図書館を広域利用できるような環境が整備されていることです。そのことにより、買い物や通院など、外出したついでに図書館に立ち寄る機会も増えてきます。また、各図書館の特色を打ち出したり、交流したり、住民の意見や要望を反映させたりするなど、図書館の利用改善にもつながってきます。「学校施設や社会教育施設の空き部屋等を活用した学習活動の推進」は、熟年者マナビ塾事業での活用が 500 回を超えていることは、喜ばしいことです。今後の学校の教育活動を展開する上での地域人材の活用にもつながることが期待されます。「発掘調査事業の実施」では、各種開発行為に対して、迅速に対応したことにより事業のねらいを達成できたものと考えます。今後も、令和元年度の文化課内の計画的・組織的な事業推進体制を維持・発展させていくとともに、飯塚市文化財保存活用計画策定についても確かな歩みを期待します。

□ 元小学校校長 森山 一昌

令和元年度に実施された学校教育分野の5事業と社会教育分野の5事業についてヒアリングを中心に評価を行いました。合計10事業中「達成している」6件、「概ね達成している」4件でした。どの事業も問題はなく適切に実施されたと思われます。以下、それぞれの事業について評価の概要を述べます。

学校教育分野について、「ICT機器の計画的整備や積極的活用」では、学校の授業支援のための「ICT活用に関するノウハウや相談・トラブル事例集」や「電子黒板接続の方法」等の作成は評価できます。今後は、ネットワークの整備が望まれます。

「学校施設の長寿命化計画の策定」では、何度も関係課会議を開催し、「飯塚市学校施設長寿命化計画」が策定されたのは評価できます。今後、フォローアップが適切になされることを期待します。

「教職員の役割の見直しと専門スタッフの活用」では、専門スタッフを活用した結果、教職員や保護者の反応はどうだったかを示すことも必要だと思います。

「大学・企業と連携した体験的活動等の実施」では、「年3回の教職員の研修」「児童のプログラミング体験」「プログラミングコンテスト」の実施は評価できます。今後は、「プログラミング教育モデルカリキュラム」「授業事例集」を活用した教職員の研修の充実と児童生徒の発達段階に応じた操作技術の指導を期待します。

「献立検討委員会（毎月開催）による給食内容の工夫・改善」では、どのような工夫・改善がどういった成果を出しているのかも数値目標に設定してほしいと思います。今後も、より多く保護者・児童生徒・教職員の思いを聞いていただき、学校給食の充実に努めてほしいと思います。

社会教育分野について、「放課後子ども教室事業の実施」では、目標値には達していませんが、事業開催数1000回以上参加者数2000人以上の実績は評価できます。今後は、指導・支援者に参加した子どもがどのように変容しているのかを捉えるアンケート実施したり、子どもの満足度を調査したりすることも必要ではないかと思えます。

「図書館の相互の（広域）利用促進」では、嘉飯圏域内住民が自由に他の図書館を広域利用できるように環境整備を実施し、相互利用の促進に取り組んでいることは評価できます。今後は、「予約・リクエスト」や「他自治体での返却」等を実施してほしいと思います。

「学校施設や社会教育施設の空き部屋等を活用した学習活動の推進」では、放課後子ども教室が、市内19小学校全ての校区で事業が展開されていることは評価できます。事業成果の評価は事業の実施回数だけではなく、前述した子どもの変容を捉えるアンケートや子どもの満足度調査から数値化することも検討してほしいと思います。

「文化会館（飯塚コスモスコモン）施設の改修計画に基づく整備の推進」では、設計業者・建築担当課・指定管理者・文化課の4者が密に連携し改修工事がなされていることは評価できます。今後も、全館休館をできるだけ短縮し、改修計画に基づいた工事がなされることを期待しています。

「発掘調査事業の実施」では、発掘調査における遺跡・遺物の公表や活用した件数も目標値にすることも再度検討して頂きたい。今後も文化財行政に対し市民の理解を求めていくことに努めてほしいと思います。

3 取組み施策別評価結果

表の見方

- ※ 「No.」は「事務事業に係る点検・評価一覧表」のシートNo.
- ※ 「事業等」は「事務事業に係る点検・評価一覧表」の取組施策等
- ※ 「所管課」は事業等を行った担当部署
- ※ 「意見等」はヒアリングにおける評価者2名の意見等
- ※ 「評価」・・・A(達成している) B(概ね達成している)
 C(課題がある) D(事業見直しが必要)

(1) 学校教育

☆ICTの活用による効果的な学習の推進

ICTを活用した新たな学びの研究・実践を推進します。

No.	事業等	所管課	意見等	評価
1	ICT機器の計画的整備 や積極的活用	教育総務課 学校教育課	<p>第3期教育振興基本計画やGIGAスクール構想に基づいた「ICTの活用による効果的な学習の推進」が、市全体で計画的に進められていることは先進的な取組と言える。ハード面では平成27年度より電子黒板と教育用パソコンが計画的に整備されており、ICTの活用による学習効果を期待することができる。またソフト面での事業内容についても専門性の高いICT研究指導員3名の配置を民間に委託することにより、教職員の負担軽減とともに教職員のICT活用に関する指導力向上にもつながっていると思われる。学校からの訪問依頼も多く、ICT研究指導員の訪問回数が目標を大きく上回っていることは、ICT機器を積極的に活用しようとする学校側の姿勢が伝わってくる。目標設定については、研修やサポートに関して教員の満足度アンケートを実施する等、ICT研究指導員の報告や研究成果物の内容から数値化できるものを数値目標にする工夫をして頂きたい。</p> <p>ICT機器は整備後、いかに授業等で活用されるかが重要であるため、今後は研究指導員の増員検討・活用に関する事例集等を作成して効果的な活用方法を共有し、実践・改善のサイクルを期待したい。</p>	A

☆学校施設の環境整備

将来的な人口減少による教育施設の需要や財政状況の変化等を踏まえ、学校施設に求められる機能、性能を確保するため、ファシリティマネジメントの視点を持ち、安心して学べる教育施設の計画的整備に努めます。

No.	事業等	所管課	意見等	評価
2	学校施設の長寿命化計画の策定	教育総務課	<p>学校施設の安全性の確保は、そこで過ごしたり活動したり児童生徒はもとより、施設を利用したり避難場所として活用したりする地域の方にとっては最優先課題である。</p> <p>学校施設長寿命化計画は、一つの課だけでは作成することができない。関係各課の連携や調整が当然必要となる。そのため、実施年度の3年前から取りかかり、関係課会議を通して本計画が作成されたことは大いに評価することができる。各学校の施設利用状況から老朽化の調査や改造実施年度の想定など、正確なエビデンスに基づいて作成されていることも、本事業の意義を裏付けるものとなっている。</p> <p>学校施設の利用状況や自然環境等による老朽化の進み具合などにも、変化が生じることが予想される。そのため、令和5年度から5年を目安に計画等の見直しを行うことについては、妥当性がある。また、学校施設長寿命化計画の実施には巨額の予算が必要となる。今後は、定期的な老朽化の進み具合の点検・見直しや見直しをもった予算の確保と効率的な予算執行が望まれる。</p>	A

☆教職員の働き方改革の推進

「教職員の働き方改革取組指針（福岡県教育委員会）」を踏まえ、教職員の長時間勤務改善に向けた取組の推進に努めます。

No.	事業等	所管課	意見等	評価
3	教職員の役割の見直しと専門スタッフの活用	学校教育課	<p>飯塚市の教職員の働き方改革では、職員の長時間勤務改善に向けた取組を推進している。このことは、県教育委員会が示している目的を統合した形になっており、具体的な改善策は様々考えられるが、飯塚市では各学校の現状や実態の分析・考察等を通して、令和元年度は教職員の役割の見直しと専門スタッフ（スクールカウンセラーSC・スクールソーシャルワーカーSSW）の活用に焦点化している。</p> <p>専門スタッフの活用については、不登校児童生徒や特別支援教育に関わる相談等が予約待ちの状況であることから積極的に活用されている事が伺える。相談等が予約待ちであるという課題の解決には、スクールソーシャルワーカー1名の増員だけではなく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの複数増員が必要だと思われる。</p> <p>教職員の長時間勤務改善に向けた取り組みの1つが専門スタッフ（SC・SSW）の活用であれば、活用した結果長時間勤務改善に有効であったのかを、教職員の意識調査等で明らかにしていく必要があると思われる。また、教職員の役割を見直すためには、これからの教職員の役割とは何かを明確にする必要があると思われる（学力観，授業観，児童生徒観等）。</p>	B

☆情報を読み解く力・活用する力の育成

初等中等教育におけるプログラミング的思考を含む情報活用能力の育成に向け、大学・企業と連携した体験的活動等の実施や指導体制の充実を図り、学校におけるプログラミング教育の充実を推進します。

No.	事業等	所管課	意見等	評価
4	大学・企業と連携した体験的活動等の実施	学校教育課	<p>飯塚市では、いち早く大学や企業と連携し、プログラミング教育モデルカリキュラムや授業事例集等の作成を行うなど、まさに先進的な取組を積極的に推進している。教育委員会のフロアにもPepperが設置され、ソフトバンクとの教育授業連携協定により、それを全小中学校に導入することで、児童生徒にとっては、親しみやすく、しかも分かりやすくプログラミング的思考を育む環境が整備されたことになる。また、近隣の九州工業大学とも連携を強めたカリキュラムの作成は、授業レベルに具体化することができる。</p> <p>①教員研修の実施②児童のプログラミング体験講座③プログラミングコンテストの出場、と全ての実績が100%を超えており、本施策の充実した達成状況を伺うことができ評価できる。</p> <p>飯塚市プログラミング教育モデルカリキュラム、プログラミングで育成する資質・能力の評価規準を活用しプログラミング教育を推進していただきたい。また本施策のさらなる充実・発展には、「ICTの活用による効果的な学習の推進」とも連動させる必要があり、施策の推進に当たっては共有化や連絡・調整等が重要となってくる。</p> <p>今後、児童生徒の一人一台端末活用に向けて、教師の指導力向上のための研修と児童生徒の発達段階に応じた操作技術の指導を行うこと、また教材の導入を検討する必要がある。</p>	A

☆学校給食の充実

安全・安心な給食の提供に努めるとともに、献立内容の工夫・改善や給食指導の充実等により学校給食を通じた食育を推進します。

No.	事業等	所管課	意見等	評価
5	献立検討委員会（毎月開催）による給食内容の工夫・改善	学校給食課	<p>飯塚市では、児童生徒にとって楽しみの一つである学校給食の充実に向けて、献立内容に焦点化して取り組んでおり、併せて食育の推進にも学校給食の献立内容を活用している。給食残滓率も確実に減少していることから、献立検討委員会が機能している指標の一つにもなっており評価できる。但し、目標値については献立検討委員会の開催回数だけでなく、どのような工夫・改善が行われ成果を出しているかの目標設定も必要と思われる。そのためには、検討委員会に出席している保護者だけでなく、より多くの保護者や、児童生徒へのアンケートを実施し情報収集する工夫が必要と思われる。</p> <p>今後は献立表や市の広報誌・ホームページ等を活用し学校給食の目的や教室での様子、献立のねらいや内容、食育の進捗状況等について積極的に周知していただきたい。</p>	B

(2) 社会教育

☆青少年交流事業・体験活動の充実

変化の激しい社会において、青少年が主体性をもって「社会を生き抜く力」を養っていきけるよう、青少年の交流事業・体験活動の推進と充実及び居場所づくりに努めます。

No.	事業等	所管課	意見等	評価
6	放課後子ども教室事業の実施	生涯学習課	<p>取組状況の中では、体験・交流・学習など、子供たちにとって魅力ある様々なプログラムが提供されているところに特長が見られる。そのことにより、生きる力や心豊かな成長を育むことができている。また、参加者数率もほぼ100%であり、本施策が軌道に乗っていることが伺える。但し、取組の成果を確認するには、参加者数と事業開催数だけで判断せずに、指導・支援者の意見等を収集することも検討して頂きたい。例えば、子どもがどのように変容（かしこく・やさしく・たくましい子ども）しているのか等を尋ねるアンケートを実施したり、子どもの満足度の調査をしたりすることが考えられる。</p> <p>コロナウイルス感染拡大により中止となった事業もあるが、今後とも、「かしこく・やさしく・たくましい子どもの育成」のため、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分に行い事業を実施していただきたい。</p>	B

☆読書活動の推進

本との出会い、読書の楽しさを伝えるため、図書館ボランティアと連携・協力して読書活動を推進します。

No.	事業等	所管課	意見等	評価
7	図書館の相互（広域）利用の促進	生涯学習課	<p>圏域住民が自由に他自治体の図書館を広域利用できるように環境整備を実施し、相互利用の促進に取り組んでいることは評価できる。</p> <p>今後は「予約・リクエスト」や「他自治体での返却」について早急に検討し、実施できるように努めて頂き、「図書館の相互利用」が地域の活性化につながることを期待する。また、利用者に対するア</p>	B

			ンケート調査や年齢層別の利用状況に関する調査などの分析をもとに、事業の工夫・改善を生み出すことも考えられる。さらには、学校図書室利用との連携策についても一考する余地がある。
--	--	--	--

☆教育施設の有効活用による学びの場の創造

教育施設をファシリティマネジメントの視点をもってあらゆる世代における学びの場としての活用をはかりながら、身近な地域の知の拠点施設としての機能を果たしていきます。

No.	事業等	所管課	意見等	評価
8	学校施設や社会教育施設の空き部屋等を活用した学習活動の推進	生涯学習課	<p>学校施設を放課後子ども教室や高齢者の居場所とした熟年者マナビ塾として、開放しており、また、社会教育施設は、通学合宿や体験合宿に利用されている。子供たちからお年寄りまでの様々な利用者のニーズや活用目的等が把握された上で、本事業が展開されていると考える。放課後子ども教室は市内小学校 19 校全ての校区で事業展開されており評価出来る。</p> <p>学校施設・社会教育施設を活用した事業の実施状況がいずれも目標値を達成しており評価できる。</p> <p>指導者・保護者・子ども達にアンケート等を実施し、教育施設を活用した学習活動がどれだけ推進されたか、生きる力の育成がどれだけ図れたかを点検しその成果を示すのは可能を思われる。</p> <p>今後も関係各課と連携して、指導・支援をするスタッフの確保を行い、子供たちからお年寄りまでの様々な利用者のニーズや活用目的等に応じたプログラムの開発と利用促進に努めていく必要がある。</p>	A

☆社会教育施設の整備・運営

社会教育施設・設備の整備を図り、事業内容の工夫や改善等を行うことで、社会教育行政の発展と促進に努めます。

No.	事業等	所管課	意見等	評価
9	文化会館（飯塚コスモスコモン）施設の改修計画に基づく整備の推進	文化課	<p>文化会館（飯塚コスモスコモン）施設の改修計画は、施設建設から27年を経過していること、避難場所としても指定されていることなどから、耐震強化を含めた整備の推進は計画的に進めるべきである。</p> <p>文化会館施設の改修計画に基づいて改修が履行されており、全館休館の期間を短縮するなどの措置も講じられるなどの方策も実施され、利用者に配慮した方法がとられていることも評価出来る。</p> <p>今後も、未永く市民に親しまれ、安全かつ安心して快適に利用できる文化会館（飯塚コスモスコモン）となるよう、改修計画に基づいて4者（設計業者・建築担当課・指定管理者・文化課）が密に連携し改修工事を行って頂きたい。</p>	A

☆文化財の保存・継承・活用

文化財の保存・整備・活用を図るとともに、地域の文化や特色を伝承する民俗芸能の保存・継承・活用に努めます。

No.	事業等	所管課	意見等	評価
10	発掘調査事業の実施	文化課	<p>遺物整理作業遺跡発掘件数は目標値と同じ6件であるが、開発行為把握件数と発掘調査件数については目標値を上回り、積極的な事業の推進を伺うことができる。</p> <p>開発行為に伴う埋蔵文化財の事前審査にも迅速に対応しており、開発事業と埋蔵文化財保護の調整が図られていることは評価できる。発掘調査における遺跡・遺物の公表や活用した件数も目標値にすることも再度検討して頂きたい。</p> <p>今後も、計画的・組織的な事業推進体制を維持・発展させていくとともに、飯塚市文化財保存活用計画策定についても確かな歩みを期待したい。</p>	A

事務事業に係る点検・評価一覧表（令和元年度実施）

区分	シート No.	取組施策等	評価 結果
学校教育	1	ICT 機器の計画的整備や積極的活用	A
	2	学校施設長寿命化計画の策定	A
	3	教職員の役割の見直しと専門スタッフの活用	B
	4	大学・企業と連携した体験的活動等の実施	A
	5	献立検討委員会（毎月開催）による給食内容の工夫・改善	B
社会教育	6	放課後子ども教室事業の実施	B
	7	図書館の相互（広域）利用の促進	B
	8	学校施設や社会教育施設の空き部屋等を活用した学習活動の推進	A
	9	文化会館（飯塚コスモスコモン）施設の改修計画に基づく整備の促進	A
	10	発掘調査事業の実施	A

点検及び評価シート【学校教育分野】

No. 1

対象年度	元年度	所管課名	教育総務課																																
1 基本目標		かしこく やさしく たくましい 子どもの育成																																	
2 主要施策		1 確かな学力の育成																																	
		1-2 【ICTの活用による効果的な学習の推進】 ICTを活用した新たな学びの研究・実践を推進します。																																	
3 取組・事業の内容	(1)事業等名	ICT機器の計画的整備や積極的活用																																	
	(2)事業等の内容	<p>第3期教育振興基本計画、GIGA スクール構想に基づき、電子黒板・児童生徒用パソコンを年次計画により整備する。</p> <p>ICT研究指導員3名の配置を民間委託し「①教育研究所との協働による調査研究や教材開発の支援、研修の企画立案」「②学校での教員への個別指導、及び授業支援・校務支援」「③ICT活用のノウハウや相談・トラブル対応事例などの情報共有」を行い、教育の情報化を推進し、教員間の情報提供や、教師の指導力の向上を図ることを目的とする。</p>																																	
	(3)事業等の目標値	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板：令和4年度までに小中学校普通教室分、特別支援学級分、特別教室分、500台を整備 教育用パソコン：令和4年度までに児童生徒3人に1台分、3,500台を整備 支援員訪問回数：540回、職員研修：10回、職員研修のサポート：8回 																																	
4 取組状況・成果・目標値との対比など		<p>【取組状況】 電子黒板は平成27年からモデル校に先行導入し、優先的に小学5年から中学3年の普通教室・特別教室から年次計画により順次導入。 教育用パソコンは、平成27年度からモデル校に先行導入し、各学校1クラス分の40台を年次計画により、順次導入。 ICT研究指導員：3名（民間委託） 訪問対象：市内29小中学校 備考：各学校からの訪問依頼を受け、スケジュールを調整、毎月の訪問をした。</p> <p>【成果】 電子黒板やタブレットを計画どおり整備することができた。 学校におけるICT環境整備の状況について県内他市・県外類似団体の調査を行い、国の通知（H30～地方交付税措置）に対応した計画の見直し（拡充）を行った。</p> <p>【目標値との対比】 ICT機器整備台数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27年</th> <th>H28年</th> <th>H29年</th> <th>H30年</th> <th>R元年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電子黒板整備数</td> <td>4</td> <td>63</td> <td>54</td> <td>54</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>整備累計</td> <td>4</td> <td>67</td> <td>121</td> <td>175</td> <td>241</td> </tr> <tr> <td>整備目標数</td> <td>500</td> <td>500</td> <td>500</td> <td>500</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>目標達成率</td> <td>0.8%</td> <td>13.4%</td> <td>24.2%</td> <td>35.0%</td> <td>48.2%</td> </tr> </tbody> </table>					H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	電子黒板整備数	4	63	54	54	66	整備累計	4	67	121	175	241	整備目標数	500	500	500	500	500	目標達成率	0.8%	13.4%	24.2%	35.0%	48.2%
	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年																														
電子黒板整備数	4	63	54	54	66																														
整備累計	4	67	121	175	241																														
整備目標数	500	500	500	500	500																														
目標達成率	0.8%	13.4%	24.2%	35.0%	48.2%																														

	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年
教育用パソコン整備数	96	68	120	480	500
整備累計	96	164	284	764	1,264
整備目標数	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500
目標達成率	2.7%	4.7%	8.1%	21.8%	36.1%

ICT 研究指導員については、報告、成果物の提出を受け、内容を検証の上、担当指導主事と協議を行い、事業内容に反映させた。

【目標値との対比】

(目標値) ①全体訪問回数：540 回

※月 15 回/人を目標値とし、年 540 回/3 人を目標値とする。

②職員研修：10 回/年 、③職員研修のサポート：8 回 (※1)

(※1) 10 回/年の内 8 回を職員が主となる研修を実施することを目標値とする。

内容	目標値	実績
①	540 回	600 回
②	10 回	9 回
③	8 回	5 回

(実績)

① 全体訪問回数：111.1%達成

② 職員研修 : 90.0%達成

③ 職員研修のサポート：62.5%達成

5 取組・事業の課題、
今後の方向性など

【課題】

学校における ICT 環境整備計画の策定には至っていないが、教育総合会議での議題に挙げられるなど、計画策定までに着実なステップを踏んでいる。

各学校からの要望に応じた訪問のため、学校の ICT 研究指導員活用（訪問回数）にばらつきがある。

【今後の方向性】

教育用情報機器の情報収集を行い、教職員の負担軽減とともに本市の学習形態にふさわしい機器の選定を行っていく。

各学校のレビューやニーズ、業務委託先からの状況報告・成果物を集約し、情報共有を行うことで全校展開を行っていく。

※ ICT 活用格差の是正

点検及び評価シート【学校教育分野】

No. 2

対象年度	元年度	所管課名	教育総務課
1	基本目標	かしこく やさしく たくましい 子どもの育成	
2	主要施策	10 基本的施策を支える環境整備	
		10-2【学校施設の環境整備】 将来的な人口減少による教育施設の需要や、財政状況の変化等を踏まえ、ファシリティマネジメントの視点を持ち安心して学べる教育環境の計画的整備に努めます。	
3	(1)事業等名	学校施設の長寿命化計画の策定	
	(2)事業等の内容	学校施設の老朽化による建物自体の寿命や設備の不具合等の問題を是正し、児童・生徒が安全・安心で継続的に学校施設を利用できるよう、計画的な改修を図ることを目的として、策定するもの。	
	(3)事業等の目標値	長寿命化計画策定のため、関係各課との協議や調整等を行う関係課会議を3回以上行う。	
4	取組状況・成果・目標値との対比など	<p>【取組状況】</p> <p>4回の関係課会議を開催した中で関係部署等のさまざまな意見を参考に、計画（案）を作成した。</p> <p>【成果】</p> <p>令和2年6月の教育委員会会議において、飯塚市学校施設長寿命化計画を策定した。</p> <p>【目標値との対比】</p> <p>当初3回の予定であった関係課会議であったが、4回開催し、より良い協議ができた。</p>	
5	取組・事業の課題、今後の方向性など	<p>【課題】</p> <p>従来行ってきた大規模改造を行うよりも、長寿命化を行った方がコスト減につながるが、それでも40年間で約962億円の費用がかかる。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>令和5年度から令和14年度までの10年間を計画期間としているが、令和5年度から5年を目安に計画を見直す必要がある。</p>	

点検及び評価シート【学校教育分野】

No. 3

対象年度	元年度	所管課名	学校教育課
1	基本目標	かしこく やさしく たくましい 子どもの育成	
2	主要施策	5 学校指導体制の整備	
		5-3 【教職員の働き方改革の推進】 「教職員の働き方改革取組指針（福岡県教育委員会）」を基に、令和元年12月に「飯塚市立小・中学校における教職員の働き方改革プラン」の策定を行い、職員の長時間勤務改善に向けた取組の推進に努めます。	
3 取組・事業の内容	(1)事業等名	教職員の役割の見直しと専門スタッフの活用	
	(2)事業等の内容	いじめ・不登校、学校現場の様々な課題については、その要因が多様化・複雑化して学校（教職員）だけではその解決が困難になっている。 生徒が抱える悩み、不安等をカウンセリングにより和らげるとともに、教師・保護者への指導・助言を行うことにより、問題行動の未然防止や早期発見、早期解決を図る。	
	(3)事業等の目標値	カウンセラー等の年間配置数 320 回、相談件数 1,000 件	
4	取組状況・成果・目標値との対比など	<p>【取組状況】</p> <p>○スクールカウンセラー（臨床心理士） 児童生徒及び就学指導対象者へのカウンセリング、情報提供に取組んでいただいた。</p> <p>○スクールソーシャルワーカー 児童生徒及び家庭への働きかけ、学校内におけるチーム体制の構築・支援、及び保護者や教師に対する支援、相談、関係か機関とのネットワーク構築連携、調整に取り組んでいただいた。</p> <p>【成果】 各学校とも、不登校児童生徒や特別支援教育に関わる相談等で積極的な活用がみられた。</p> <p>【目標値との対比】 ○年間配置数 325 日 (内訳：月曜 38 日、火曜 46 日、水曜 47 日、木曜 47 日、金曜 97 日、SSW 50 日) 相談延べ件数 1472 件（目標達成率：147.20%）</p>	
5	取組・事業の課題、今後の方向性など	<p>【課題】 各学校のSC等の積極的な活用により、カウンセラーのスケジュールがいつばいで予約待ちの状況がある。</p> <p>【今後の方向性】 相談件数の増加と相談内容が複雑化していることにより、SSWを1名増員する。</p>	

点検及び評価シート【学校教育分野】

No. 4

対象年度	元年度	所管課名	学校教育課													
1 基本目標		次代の飯塚市を担う ひとつづくり														
2 主要施策		3 イノベーションを牽引する人材の育成														
		3-2【情報を読み解く力・活用する力の育成】 初等中等教育におけるプログラミング的思考を含む情報活用能力の育成に向け、大学・企業と連携した体験的活動等の実施や指導体制の充実を図り、学校におけるプログラミング教育の充実を推進します。														
3 取組・事業の内容	(1)事業等名	○ 大学・企業と連携した体験的活動等の実施														
	(2)事業等の内容	プログラミング教育を円滑に実施していくためのプログラミング教育推進協議会を設立し、プログラミング教育モデルカリキュラム、授業事例集等の作成を行う。大学・企業と連携し、プログラミング教育を推進するための職員研修の実施、子どもがプログラミングを体験することができる講座を実施する。														
	(3)事業等の目標値	①職員研修の実施 3回/年 ②児童のプログラミング体験講座 2日/年 ③プログラミングコンテストの出場チーム 20チーム														
4 取組状況・成果・目標値との対比など		<p>【取組状況】</p> <p>○Softbank Pepper 社会貢献プログラム（スクールチャレンジ）を活用したプログラミング教育の実施</p> <p>○Scrach や RoboBlocks を使ったプログラミング学習研修会、授業の試行</p> <p>○ソフトバンクとの教育事業連携に関する協定の特例措置で全小中学校へ Pepper を導入、中学校にプログラミング教材 micro-bit を配付</p> <p>○九州工業大学と連携した飯塚市モデルカリキュラム・授業事例集の作成・プログラミング能力・プログラミング教育で育成する資質・能力の評価規準</p> <p>○九州工業大学、Softbank と連携した子ども向けプログラミング講座、飯塚市プログラミングコンテストの実施</p> <p>【成果】</p> <p>上記のように大学や企業と連携した、市内全小中学校で Pepper を活用したプログラミング学習の実施、教員の指導力向上のための研修会、プログラミングを体験することができる講座やプログラミングコンテストを実施することができた。また、プログラミング教育推進協議会で作成した成果物を公表し、市内職員と共有することができた。</p> <p>（目標値）</p> <p>①職員研修の実施 3回/年 ②児童のプログラミング体験講座 2日/年 ③プログラミングコンテストの出場チーム 21チーム</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>目標値</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>3回</td> <td>3回</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>2日</td> <td>2日</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>20チーム</td> <td>21チーム</td> </tr> </tbody> </table>			内容	目標値	実績	①	3回	3回	②	2日	2日	③	20チーム	21チーム
内容	目標値	実績														
①	3回	3回														
②	2日	2日														
③	20チーム	21チーム														

	<p>(実績)</p> <p>①職員研修の実施：100%達成</p> <p>②児童のプログラミング体験講座：100%達成</p> <p>③プログラミングコンテストの出場チーム：105%</p>
<p>5 取組・事業の課題、 今後の方向性など</p>	<p>【課題】</p> <p>プログラミング学習は Pepper を活用する以外にも様々な学習があるため、プログラミング教育モデルカリキュラム、授業事例集の周知を目的とした研修会等をとおして、教員への理解促進を図る必要がある。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>一人一台端末活用に向けて、プログラミング学習に係る教師の指導力向上を図るため、研修内容を充実させていく。</p> <p>また、教科書にもプログラミング学習を推進するために、プログラミング学習に関する教材の導入を検討する必要がある。</p>

点検及び評価シート【学校教育分野】

No. 5

対象年度	元年度	所管課名	学校給食課
1	基本目標	かしこく やさしく たくましい 子どもの育成	
2	主要施策	3. 健やかな体の育成	
		3-2【学校給食の充実】 安全・安心な給食の提供に努めるとともに、献立内容の工夫・改善や給食指導の充実等により学校給食を通じた食育を推進します。	
3 取組・事業の内容	(1)事業等名	献立検討委員会（毎月開催）による給食内容の工夫・改善	
	(2)事業等の内容	学校給食として提供する献立について、栄養教諭、保護者代表、教職員代表、調理員代表の出席により、翌月分の献立内容や栄養価、提供の目的等を検討する会議を実施しているもの。 〔会議の年間開催回数〕 毎月1回×11月（8月は開催なし）	
	(3)事業等の目標値	献立検討委員会開催：年間11回	
4	取組状況・成果・目標値との対比など	<p>【取組状況】 保護者、教職員をはじめとする各関係者出席のもと、毎月1回会議を開催し、給食内容の工夫・改善を図った。</p> <p>【成果】 献立内容やその栄養価、提供の目的等を会議で説明することによって、保護者等に栄養教諭が作成した献立の意図を理解してもらうことができた。 また、前月に実施した献立や翌月に実施する献立について、保護者等から献立の組み合わせや味付けの評価等の意見をもらい、以降の献立作成に反映することができた。このことにより、給食残滓率の減少にも資することができた。 ・給食残滓率 平成30年度 2.94% 令和元年度 2.78%</p> <p>【目標値との対比】 計画通り、年間11回会議を開催した。（目標達成率100%）</p>	
5	取組・事業の課題、今後の方向性など	<p>【課題】 各栄養素の摂取基準を満たし、食育推進に資することを目標に献立の作成を行っているが、作成した献立の意図の保護者・教職員等への周知が不足している。</p> <p>【今後の方向性】 献立検討委員会で見られる意見を可能な限り取り入れ、食品の組み合わせや調理方法等の工夫・改善を行い、給食献立の意図について、積極的に保護者等へ周知する。</p>	

点検及び評価シート【社会教育分野】

No. 6

対象年度	元年度	所管課名	生涯学習課
1	基本目標	かしこく やさしく たくましい 子どもの育成	
2	主要施策	9. 青少年の健全育成 変化の激しい社会において、青少年が主体性をもって「社会を生き抜く力」を養っていけるよう、青少年の交流事業・体験活動の推進と充実及び居場所づくりに努めます。	
3	(1)事業等名	放課後子ども教室事業の実施	
	(2)事業等の内容	<p>学校の放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用し、各学校・地域との連携を深めながら積極的な学習意欲を支援する一方、高齢者や異学年など異なる年齢層者との交流をもつことにより、優しさや積極性・協調性などを身につけ、社会生活の中で必要となる「生きる力」と「心豊かな成長」を支援するために本事業を行うものである。</p> <p>また、次世代を担う人材を育成するため、すべての児童が放課後を安全・安心にすごし、多様な体験活動を行うことができるような一体型を中心とした放課後児童クラブ及び放課後子ども教室と連携した、総合的学習の場となることを目的として開設する。</p>	
	(3)事業等の目標値	参加者数 20,900 人、事業開催数 1,380 回	
4	取組状況・成果・目標値との対比など	<p>【取組状況】 児童の学習に対する意欲の向上や基本的な生活習慣の習得等を図るために、平日の放課後や土曜日に学校や交流センター等でニュースポーツ、ものづくり、英会話、カルタ、書道、そろばん、料理、体力アップ講座など、様々な体験・交流・学習プログラムを提供した。 また、全放課後子ども教室において、放課後児童クラブとの合同プログラムで朗唱も行った。</p> <p>【成果】 子ども達が大人や異学年など異なる年齢層者との交流を持つことにより、優しさや積極性・協調性などを身につけ、社会生活の中で必要となる「生きる力」と「心豊かな成長」を育成することができた。</p> <p>【目標値との対比】 参加者数率 97.72% (実績 20,424 人/目標 20,900 人) 事業開催率 78.84% (実績 1,088 回/1,380 回) ※令和 2 年 2 月 28 日より新型コロナウイルス感染拡大により事業を中止した。</p>	
5	取組・事業の課題、今後の方向性など	<p>【課題】 合同プログラムを実施することで、放課後子ども教室と児童クラブの関係者で顔を合わせる機会があるため、活動内容や協力体制、参加児童についての情報交換等を行うことができた。令和 2 年 2 月 28 日から新型コロナウイルス感染拡大により事業を中止した。 中止した回数：69 回</p> <p>【今後の方向性】</p>	

	<p>支援スタッフとなる地域住民の人材を確保して、事業を円滑に継続していく必要がある。令和 2 年 2 月 28 日から新型コロナウイルス感染拡大により事業を中止している。令和 2 年度の事業開始時期は未定だが、教育委員会内部及び関係各所との協議のうえ必要な安全対策を講じ事業を開始する。</p>
--	--

点検及び評価シート【社会教育分野】

No. 7

対象年度	元年度	所管課名	生涯学習課																						
1	基本目標	いつでも どこでも だれでも 学べる環境づくり																							
2	主要施策	1. 現代的・社会的な課題に対応した生涯学習等の推進																							
		1-5【読書活動の推進】 本との出会い、読書の楽しさを伝えるため、図書館ボランティアと連携・協力して読書活動を推進します。																							
3 取組・事業の内容	(1)事業等名	図書館の相互（広域）利用の促進																							
	(2)事業等の内容	飯塚市・嘉麻市・桂川町の2市1町による定住自立圏形成協定に基づく嘉飯圏域定住自立圏連携事業により、圏域住民が自由に他自治体の図書館を広域利用できるよう環境整備を実施し、相互利用の促進に取り組んでいる。また、相互の連携による情報発信機能や生涯学習支援の機能を充実させ、にぎわい創出や地域の課題解決を支援することで、図書館が地域の活性化に寄与する施設となるよう取組みを強化している。																							
	(3)事業等の目標値	利用者数／貸出資料数→217,362人／875,096点																							
4	取組状況・成果・目標値との対比など	<p>【取組状況】 2市1町が連携し、圏域内住民が他自治体の図書館を自由に利用できるための環境を整備し図書資料の貸出を行った。</p> <p>【成果】 圏域内住民が他自治体の図書館を自由に利用できるようになり、飯塚市の住民のみならず、他自治体住民の利便性も向上するとともに、図書館利用者が増えたことにより図書館の持つ情報発信機能や生涯学習支援機能が有効に活用され、広域での地域活性化にも寄与した。</p> <p>【目標値との対比】 ※事業開始年度 H30年度10月～（）内は飯塚市の数値</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>単位</th> <th>区 分</th> <th>H30年度</th> <th>R元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">利用者数 (内飯塚市)</td> <td rowspan="2">人</td> <td>目 標</td> <td>215,188</td> <td>217,362</td> </tr> <tr> <td>実 績</td> <td>217,417 (141,640)</td> <td>212,168 (137,812)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">貸出資料数 (内飯塚市)</td> <td rowspan="2">点</td> <td>目 標</td> <td>866,957</td> <td>875,096</td> </tr> <tr> <td>実 績</td> <td>867,567 (597,529)</td> <td>859,822 (597,676)</td> </tr> </tbody> </table>			内 容	単位	区 分	H30年度	R元年度	利用者数 (内飯塚市)	人	目 標	215,188	217,362	実 績	217,417 (141,640)	212,168 (137,812)	貸出資料数 (内飯塚市)	点	目 標	866,957	875,096	実 績	867,567 (597,529)	859,822 (597,676)
内 容	単位	区 分	H30年度	R元年度																					
利用者数 (内飯塚市)	人	目 標	215,188	217,362																					
		実 績	217,417 (141,640)	212,168 (137,812)																					
貸出資料数 (内飯塚市)	点	目 標	866,957	875,096																					
		実 績	867,567 (597,529)	859,822 (597,676)																					
5	取組・事業の課題、今後の方向性など	<p>【課題】 ○貸出資料の予約受付等にかかる実施に向けての検討 ○貸出資料の返却方法についての検討</p> <p>【今後の方向性】 ○相互利用の更なる促進、利便性の向上を目指す</p>																							

点検及び評価シート【社会教育分野】

No. 8

対象年度	元年度	所管課名	生涯学習課
1	基本目標	いつでも どこでも だれでも 学べる環境づくり	
2	主要施策	2. 学社連携の推進	
		2-3【教育施設の有効活用による学びの場の創造】 教育施設をファシリティマネジメントの視点をもってあらゆる世代における学びの場としての活用を図りながら、身近な地域の知の拠点施設としての機能を果たしていきます。	
3	(1)事業等名	学校施設や社会教育施設の空き部屋等を活用した学習活動の推進	
	(2)事業等の内容	<p>【学校施設を活用した学習活動】</p> <p><u>A 放課後子ども教室</u> すべての児童を対象として放課後や週末等に小学校の余裕教室や交流センター等を活用し地域の方々の参画を得て、学習活動やスポーツ・文化芸術活動等の機会を提供する。</p> <p><u>B 熟年者マナビ塾</u> 小学校の余裕教室等を地域の高齢者の居場所として開放し、そこに活動プログラムを導入し、生きる力の向上と学校支援ボランティア活動を行う。</p> <p>【社会教育施設を活用した学習活動】</p> <p><u>C 子ども会指導者連絡協議会「ジュニアリーダー研修会」</u> 自然の中でたくましく生きる力や社会性を持った心身ともに健全なリーダーを育成するため、野外活動、体験活動等を通して学習、実習を行う。</p> <p><u>D 飯塚市庄内生活体験学校「通学合宿、体験合宿等」</u> 生活体験を中心に集団で体験することを通じて、子どもの自立と自律を図り「生きる力」を体得させることを目的とし、通学合宿、体験合宿等の事業を行う。</p>	
	(3)事業等の目標値	<p>A・B 事業を学校空き教室で実施した回数／事業実施回数＝80%以上（目標値）</p> <p>C・D 事業を社会教育施設で開催した回数／事業開催回数＝100%（目標値）</p>	
4	取組状況・成果・目標値との対比など	<p>【取組状況】</p> <p>A：市内の小学1年～6年生を対象に土曜日や放課後、小学校の余裕教室や各地区交流センターにおいて、様々な学習プログラムを提供している。市内19小学校全ての校区で事業展開している。</p> <p>B：60歳以上の市民（参加希望者）を対象に週1度、小学校空き教室や交流センターで自主学習を行う。学校からの依頼があれば講師として児童の学習支援活動を行う。</p> <p>C：飯塚市社会教育関係団体の一つである「子ども会指導者連絡協議会」が地域子ども会の活性化を目指し、次世代リーダーの人材発掘として年1回「ジュニアリーダー研修会」を実施している。令和元年度は、「飯塚市穂波野営訓練所（通称：不便の家）」を活用し生活体験を通して野外活動についての学習、実習を行っている。</p> <p>D：平成27年度より指定管理施設として受託した事業者が管理・</p>	

	<p>運営を行っている。通学合宿、体験合宿等を年 24 回以上実施している。</p> <p>【成果】</p> <p>A: 学習プログラムの提供については、子ども会指導者等をボランティアとして活用している地区もあり、地域との繋がりが深まったといえる。</p> <p>B: 学校で異世代の人と関わりを持つことで子ども達の意識（目上の人に対する接し方含め）変容が得られている。</p> <p>C: これまで市外の社会教育施設を活用することが多かったが、令和元年度は市内社会教育施設を活用したことで、参加者への周知に繋がった。</p> <p>D: 主な事業である「通学合宿、体験合宿」に加え、自主事業として未就学児の親子を対象とした自然体験活動や無農薬野菜の生産体験活動などに取り組み、学びの場としての充実を図ることができた。</p> <p>【目標値との対比】 令和元年度実績</p> <p>A: 学校で実施した回数 886 回／事業実施回数 1,088 回 (81%)</p> <p>B: 学校で実施した回数 570 回／事業実施回数 570 回 (100%)</p> <p>C: 社会教育施設の活用数 2 回／事業実施回数 2 回 (100%)</p> <p>D: 社会教育施設の活用数 160 回／事業実施回数 112 回 (143%)</p> <p>※D: 庄内生活体験学校は外部からの利用依頼が 48 回あった</p>
<p>取組・事業の課題、今後の方向性など</p>	<p>【課題】</p> <p>A: 学習内容によっては、参加人数が多数となった場合の場所確保、指導員不足の問題、連携事業の場合における責任の所在の明確化等の課題がある。</p> <p>B: 塾生の高齢化が進む中で、若い世代での新規参加者に欠けるため、参加者の増加を図る必要がある。</p> <p>C、D: 周知等により土日の利用はあるが、平日の利用促進を図る必要がある。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>学校施設、社会教育施設において、子ども達や保護者、地域の方々を対象とした「学びの場の提供」の事業拡大に向けては、解決すべき課題の把握に努め、行政組織間での連携体制を確立し事業の充実に努めていく。</p>

点検及び評価シート【社会教育分野】

No. 9

対象年度	元年度	所管課名	文化課
1	基本目標	1.現代的・社会的な課題に対応した生涯学習等の推進	
2	主要施策	1-4 社会教育施設の整備・運営 社会教育施設・設備の整備を図り、事業内容の工夫や改善等を行うことで、社会教育行政の発展と促進に努めます。	
3 取組・事業の内容	(1)事業等名	文化会館（飯塚コスモスコモン）施設の改修計画に基づく整備推進	
	(2)事業等の内容	建設から27年が経過し、建物自体の経年劣化に加え、設備等についても大半が耐用年数を迎え更新時期が迫っている状況である。さらに、本施設は地域の避難場所としての役割も担っており、ホール等に使用されている吊り天井については、耐震強化を急ぎ実施する必要があることから、平成31（令和元）年度から令和5年度の5カ年を集中期間とし、施設・設備の大規模改修工事を実施する。	
	(3)事業等の目標値	飯塚市文化会館（飯塚コスモスコモン）改修計画に基づき工事を実施する。 改修工事の委託・工事発注の件数 3件	
4	取組状況・成果・目標値との対比など	<p>【取組状況】</p> <p>文化会館改修工事設計業務委託については、プロポーザル方式を採用し、専門的知識と実績を備えた業者を選定し契約を行った。契約後は、設計業者及び関係部署において協議を定期的に行い、工事内容及び工事期間等について調整を進めている。パッケージエアコン改修工事については、できるだけ利用者に支障がないように実施時期を調整した。</p> <p>【成果】</p> <p>改修計画に基づき、文化会館改修工事設計業務委託の契約を行い、現在改修に向けて設計業務を履行中である（令和元年度～令和2年度）。パッケージエアコン改修工事の実施し、会議室・事務室等の空調設備等の改修を行った。</p> <p>【目標値との対比】</p> <p>予定発注件数(3件) 実績発注件数(3件) 達成率 100%</p> <p>〔設計業務委託 パッケージエアコン改修（機械設備）工事 パッケージエアコン改修（電気設備）工事〕</p>	
5	取組・事業の課題、今後の方向性など	<p>【課題】</p> <p>設計にあたっては、建設費及びその後の維持管理費が抑制できる内容が求められるとともに、本市の文化芸術活動等を停滞させないためにも、全館休館の期間をできるだけ短縮し、全館休館時に天井改修工事以外の工事を効率的に実施できるように工事順序等を考慮した設計が必要である。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>本市における文化振興を推進・発展のため、文化全館休館期間をできるだけ短縮し、効率的で効果的な工事を実施していく。</p>	

点検及び評価シート【社会教育分野】

No. 10

対象年度	元年度	所管課名	文化課																	
1 基本目標		個性豊かな 新しい文化の創造																		
2 主要施策		1. 文化の振興・文化財の保護																		
		1-3【文化財の保存・継承・活用】 文化財の保存・整備・活用を図るとともに、地域の文化や特色を伝承する民俗芸能の保存・継承・活用に努めます。																		
3 取 組 ・ 事 業 の 内 容	(1) 事業等名	発掘調査事業の実施																		
	(2) 事業等の内容	各種開発行為に伴う事前審査及び発掘調査、市内に所在する重要遺跡の内容確認調査、発掘調査成果の成果・報告書作成を実施することのより市内に所在する埋蔵文化財の保護・活用を目的とした事業である。																		
	(3) 事業等の目標値	開発行為把握件数：125件 発掘調査件数：2件 遺物整理作業遺跡発掘件数：6件																		
4 取組状況・成果・目標値との対比など		<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種開発行為に迅速に対応し、開発事業と埋蔵文化財保護の調整を図っている。 重要遺跡については、発掘調査等で内容の把握に努めるとともに、文化財保護を含めその活用を図っている。 発掘調査を実施したが遺物の整理ができていない資料については計画的に整理し、資料として活用できる状態にしている。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 開発行為に伴う埋蔵文化財の事前審査には迅速に対応し、開発事業と埋蔵文化財保護の調整を図ることができた。 重要遺跡確認調査では、ホーケントウ古墳の発掘調査を実施し、その構造等が明らかとなった。 資料の保存、活用を目的として、清水遺跡・地田遺跡・佛田遺跡の出土遺物・遺構図面などの再整理・登録化を行った。 <p>【目標値との対比】</p> <ul style="list-style-type: none"> 開発行為把握件数目標達成率 113% 発掘調査目標達成率 150% 遺物整理作業件数 100% <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29 年度</th> <th>H30 年度</th> <th>R 元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開発行為把握件数</td> <td>132</td> <td>130</td> <td>142</td> </tr> <tr> <td>発掘調査件数</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>遺物整理作業実施遺跡数</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>				H29 年度	H30 年度	R 元年度	開発行為把握件数	132	130	142	発掘調査件数	3	3	3	遺物整理作業実施遺跡数	2	5	6
	H29 年度	H30 年度	R 元年度																	
開発行為把握件数	132	130	142																	
発掘調査件数	3	3	3																	
遺物整理作業実施遺跡数	2	5	6																	
5 取組・事業の課題、今後の方向性など		<p>【課題】</p> <p>各種開発行為に伴う事前審査については今までどおり迅速に対応できるよう心がける。市の重要遺跡確認調査では、国・県等の補助、指導を受けながら計画的に適切な調査し、保存・活用を行い、市民の理解を求める必要がある。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>市内の重要遺跡については、今後策定していく飯塚市文化財保存活用計画策定の中で保存・活用の方策を定め進めていく。</p>																		

参考資料

1 令和元年度 教育委員会会議付議案等一覧

(1) 教育委員会会議付議案件

件 名	提出日
臨時代理の承認(2019年度事務局職員の人事異動等)	H31. 4. 17
飯塚市立小中一貫校長の任命	H31. 4. 17
飯塚市消費税率及び地方消費税率の改定に伴う関係条例の整備に関する条例	R1. 5. 14
飯塚市教育職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例	R1. 5. 14
飯塚市社会教育委員の委嘱	R1. 5. 14
飯塚市公民館運営審議会委員の委嘱	R1. 5. 14
飯塚市図書館運営協議会委員の任命	R1. 5. 14
飯塚市文化財保存活用推進委員会委員の委嘱	R1. 5. 14
飯塚市立学校通学区域審議会委員の委嘱又は任命	R1. 6. 12
飯塚市いじめ・不登校問題連絡協議会委員の委嘱又は任命	R1. 6. 12
飯塚市心身障がい児(生)就学指導委員会委員の委嘱又は任命	R1. 6. 12
飯塚市学校運営協議会委員の任命	R1. 6. 12
飯塚市学校運営協議会委員の任命	R1. 6. 12
飯塚市図書館運営協議会委員の任命	R1. 6. 12
飯塚市公民館条例施行規則等の一部を改正する規則	R1. 7. 10
飯塚市立図書館条例施行規則の一部を改正する規則	R1. 7. 10
飯塚市給食運営審議会委員の委嘱又は任命	R1. 7. 10
令和2年度から使用する小学校教科用図書の採択及び中学校教科用図書(道徳を除く)の採択結果	R1. 8. 19
飯塚市学校運営協議会委員の任命	R1. 8. 19
指定管理者の指定(飯塚市庄内生活体験学校)	R1. 8. 19
令和元年度教育費に係る補正予算	R1. 8. 19
飯塚市教育委員会事業評価結果(平成30年度分)	R1. 10. 31
飯塚市給食運営審議会委員の委嘱又は任命	R1. 10. 31
令和元年度教育費に係る補正予算	R1. 11. 19
飯塚市立学校通学区域審議会委員の委嘱又は任命	R1. 11. 19
飯塚市いじめ・不登校問題連絡協議会委員の委嘱又は任命	R1. 11. 19
土地の取得(目尾炭坑跡敷)	R1. 11. 19
臨時代理の承認(飯塚市教育職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例)	R1. 12. 24
教育財産の用途廃止(旧飯塚第三中学校の一部)	R2. 1. 29
訴えの提起(立岩小学校敷の所有権移転登記手続請求)	R2. 1. 29
訴えの提起(八木山小学校敷の所有権移転登記手続請求)	R2. 1. 29
訴えの提起(旧鎮西中学校敷の所有権移転登記手続請求)	R2. 1. 29
令和2年度教育費に係る当初予算	R2. 2. 13
飯塚市教育職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例	R2. 2. 13
教育財産の用途廃止(旧目尾小学校)	R2. 2. 13
飯塚市地域学校協働活動推進員設置要綱の制定	R2. 2. 13

新型コロナウイルス感染拡大防止に係る小・中学校等の対応について	R2. 2. 28
令和 2 年度教職員の人事異動等	R2. 3. 25
臨時代理の承認(令和元年度教育費に係る補正予算要求)	R2. 3. 25
臨時代理の承認(飯塚市学校給食条例施行規則の一部を改正する規則)	R2. 3. 25
令和 2 年度飯塚市教育施策要綱	R2. 3. 25
飯塚市歴史資料館条例施行規則の一部を改正する規則	R2. 3. 25
飯塚市中学校部活動指導員に関する要綱の制定	R2. 3. 25
飯塚市スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーに関する要綱の制定	R2. 3. 25
飯塚市小中学校通級指導実施要綱の一部を改正する要綱	R2. 3. 25
飯塚市立学校管理規則の一部を改正する規則	R2. 3. 25

(2) 教育委員会会議報告案件

件 名	提出日
飯塚市立小中学校にかかる空調設備の整備状況について	H31. 4. 17
2019 年度飯塚市「学校開放日」、運動会・体育会及び修学旅行の日程等について	H31. 4. 17
飯塚市放課後児童クラブの名称及び定員の告示について	H31. 4. 17
飯塚市放課後児童健全育成事業 10 連休の対応について	H31. 4. 17
飯塚市の生涯学習体系の作成について	H31. 4. 17
史跡鹿毛馬神籠石保存活用計画の策定について	H31. 4. 17
飯塚市放課後児童健全育成事業の実施状況について	R1. 5. 14
人身傷害事故に係る専決処分の報告について	R1. 6. 12
令和元年度学校開放日の結果報告について	R1. 6. 12
第 38 回飯塚新人音楽コンクールについて	R1. 6. 12
旧松喜醬油屋の活用に関する協定書の締結について	R1. 6. 12
令和元年第 3 回飯塚市議会定例会の結果について	R1. 7. 10
大規模改造工事について	R1. 7. 10
飯塚市小・中学校給食残さい率について	R1. 7. 10
第 40 回飯塚市少年の船事業について	R1. 7. 10
第 31 回アジア太平洋子ども会議(APCC)・イン福岡について	R1. 7. 10
飯塚市庄内生活体験学校の指定管理者に係る指定候補者の答申について	R1. 8. 19
飯塚市児童センター等運営委員会委員の委嘱について(補助執行事務)	R1. 8. 19
「飯塚市学校給食異物混入対策マニュアル」の運用開始について	R1. 8. 19
第 40 回飯塚市少年の船事業本研修の実施報告について	R1. 8. 19
飯塚市文化会館改修工事設計業務委託の受託候補者の決定について	R1. 8. 19
サイエンスモール in 飯塚 2019 の実施報告について	R1. 9. 26
旧松喜醬油屋を活用する会補助金交付要綱の制定について(補助執行事務)	R1. 9. 26
令和元年第 4 回飯塚市議会定例会の結果について	R1. 10. 31
令和元年度飯塚市奨学資金貸付審議会に係る諮問及び答申について(補助執行事務)	R1. 10. 31
令和元年度学校開放日の結果について	R1. 11. 19

令和元年第 5 回飯塚市議会定例会の結果について	R1. 12. 24
「飯塚市立小・中学校における教職員の働き方改革プラン」の策定について	R1. 12. 24
飯塚市学校給食体験イベントの開催について	R1. 12. 24
令和元年度第 2 回飯塚市奨学資金貸付審議会に係る諮問及び答申について(補助執行事務)	R2. 1. 29
飯塚市学校給食体験イベントの開催結果について	R2. 1. 29
令和元年度飯塚市成人式の結果報告について	R2. 1. 29
学校教育プラン R 2 の策定について	R2. 2. 13
学校給食費滞納に対する法的措置の専決処分について	R2. 2. 13
学校給食調理等業務の受託候補者特定について	R2. 2. 13
飯塚市営駐車場条例の一部を改正する条例の制定(補助執行事務)	R2. 2. 13
令和 2 年第 1 回飯塚市議会定例会の結果報告について	R2. 3. 25
心身障がい児(生)の就学等について	R2. 3. 25
令和 2 年度からの小学校オンライン英会話事業委託業者の決定について	R2. 3. 25
臨時休校に伴う 3 月分の給食実施について	R2. 3. 25